

令和3年度和歌山県立那賀高等学校  
第3回学校運営協議会 議事概要

- 1 日 時 令和3年12月22日（水）15:00～17:00
- 2 会 場 那賀高等学校 応接室
- 3 出席者 岸田正幸 福山晴美 細田能成 西岡かおり 森勝博
- 4 傍聴者 村崎隆志 坂上裕昭 小山哲司 岩本茉莉 古谷直輝 塚本浩史 東芝稔
- 5 概 要

(1) 開 会

(2) 校長あいさつ

委員への出席に対するお礼

(3) 協議題

議 長 岸田正幸（会長）

ア 令和3年度那高キャリア支援授業（2年生）の報告について

【校長から説明】

コロナ禍の状況を踏まえ、昨年度と同様に代替事業を行った。本年度は、本校体育館で岸田会長にコーディネーターをもらい各クラスからの代表生徒7名が登壇し、「メタ認知」をテーマとしたパネルディスカッションを行った。那賀高校の生徒たちが上手く対応できるか心配であったが、期待以上に活躍してくれ、会場で傍聴していた他の生徒にも大きな影響を与え、とても良い結果が得られた。



【意見】

- ・ 良い取組であった。今後も継続して行っても良いのではと感じた。キャリア教育の中で最も大切な内発的動機付けを高めるため、自分自身と向き合う機会を持たせることがキャリア教育にとって大きな柱となると考えている。高校2年生でこのような機会を持たせることができ、良い取組となった。
- ・ 自分と同年の子供達の考えを聞くことで、自分と向き合えるきっかけとなった。身近な友達の言葉を発言として聞くことで、改めて自分自身を考えることができたのではないかと感じる。そこには何とも言えない空間があったように思われる。
- ・ 1人1人のパネラーの考えを、自分が事前に考えていたことと照らし合わせて聞くことが良かったのではないかと感じる。事前指導として取り組んでいたことが良かった。
- ・ 進路と向き合う高校2年生というタイミングが良かったと思う。
- ・ 当日参加した先生方は、今後の教育に生かされるのではないかと感じる。
- ・ 生徒の率直な意見をルールを守った中で発言できたことが良かった。
- ・ 学びに向かう力の中で「自己調整力」とは「振り返り」のことであるが、「振り返り」こそ「メタ認知」である。
- ・ たとえ生徒の本音が出てきて収拾がつかなくなったとしても、生徒の率直な思いを

聞き出すという今回のような取組は大切なことである。

- ・ 特に今の子供達には、このような取組がないのではないか。
- ・ 自分が高校時代にはいろいろと悩んだ。最近の子供達にも昔と同様に時間はあるが、考えているようで考えていない。今回の取組は、日本の子供達に欠けている力を身につけることができる。定期的にこのような取組をすることが、これからの教育にとって必要なことではないか。
- ・ 来年度のカリキュラム計画の中で位置づけてみることを来年度に向けて考えてみてはどうか。

## イ 学校目標とスクールポリシーの具体的な取組について

### 【校長から説明】

生徒の人間形成のために、学年を追って身につけていく力を職員全体で4月から考えていたところ、県下各校において次年度までにスクールポリシーを作成することになったため、「身に付ける力」と「スクールポリシー」を平行して考えていった。御覧いただきご意見をいただきたい。

### 【意見】

- ・ 補足として、3つのポリシーは大学で定着している考えである。2000年位から大学に企業側から欲しい人材の提言があったため、大学ではディプロマポリシーを作成した。このことは、高校も一緒ではないかという考え方となり、卒業までに身に付ける力としてグラデュエーションポリシーとなった。加えてカリキュラムポリシーやアドミッションポリシーを作成することは、来年までに学校がしっかりと「学校のメタ認知」として考えるという目的もある。
- ・ 那賀高校の教育する過程を提示することは、職員が教育に責任を持つということ。今までしてきたことを継続してそのまますることは、スクールポリシーは絵に描いた餅なる。形だけに終わらず、教職員でスクラップ&ビルドを実施していかなくてはいけない。
- ・ グラデュエーションポリシーを、どこまで具体化させることができるかが、本気モードになるかどうかに関係する。可視化できるもので評価できるものになればなるほど本気度がわかる。
- ・ このような話になることが素晴らしいこと。先生方は大変だとは思いますが一歩進んでもらえたらと思う。
- ・ どのような生徒を育てたいかというスクールポリシーを元に、カリキュラム編成を考え、イメージすることは楽しいことだと思う。教員の多くが、この教育でこんな人物を社会に送り出すことを学校というチームでできる。そのことは、本当に素晴らしいことではないか。
- ・ 先生方は毎日忙しいことと思うが、理想は先生方で真剣に話し合うこと。皆で共有することで先生方の心は楽になるのではないか。先生方の心が楽になれば生徒も伸びる。
- ・ 人間性を身に付けさせたい。那高生が身に付ける「確かな学力」とはどのようなものか具体化することは難しい。
- ・ グラデュエーションポリシーを実質化するために、ポリシーよりもさらに深いもの

を学校として別に持つことも必要であろう。

- ・ 国際科のグラデュエーションポリシーについて、本校は学年に1クラスではあるが他府県にある国際高校のような考え方を持つことが望ましい。また、国際高校のようなさらに発展した国際的な教育を行えないものかと思う。

#### ウ その他

##### 【校長から地域貢献事業について説明】

コロナ禍で実施できなかったことが少しずつできるようになってきている。放送部や華道部も岩出署と連携して地域に貢献している。放送部は令和4年1月10日「110番の日」のイベントに参加する。

##### 【意見】

- ・ 地域貢献が那賀高校の良い取組。
- ・ 特色を、マスコミを通じて外に発信していくことも地域の理解につながる。
- ・ 小学校に対する取組が特に良いと思う。

##### 【校長から知事特別講演について説明】

11月10日、3年生は体育館で直接、1・2年生はリモートで教室から講演を聴いた。講演後の生徒からの質問も良く、知事から「また那賀高校に来たい」という言葉をいただいた。

- ・ 第1回目の知事特別講演も那賀高校で行った。
- ・ 生徒達にとって素晴らしい経験となった。

##### 【会長】 次回の運営協議会予定について

次回は2月17日（木）に本年度の「まとめ」を行う。

#### (4) 閉会

校長謝辞

#### 6 配布資料

- (1) 第2回運営協議会「那高キャリア教育支援授業」概要
- (2) 和歌山県立那賀高等学校目標達成のための「身につける力」
- (3) 和歌山県立那賀高等学校スクールポリシー（案）
- (4) 令和3年度那賀高校地域貢献事業計画

